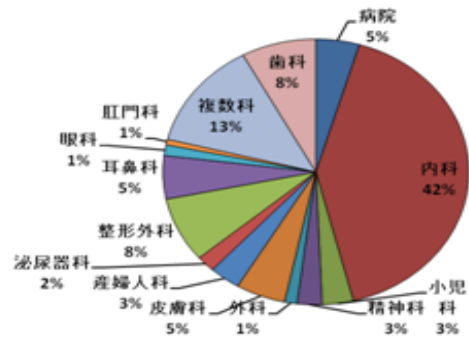


新型コロナウイルス感染症診療に関する支部アンケート結果 (概要)

1 先生の医療機関について



2 新型コロナ感染予防のためのスタッフの個人防護具

として常備しているものをお選びください (複数選択可)

① ゴーグル	70
② アイシールド	33
③ フェイスガード	109
④ キャップ	46
⑤ ガウン	70
⑥ 手袋	133
⑦ N95マスク	57
⑧ その他	31
合計	549

3 新型コロナを疑う患者さん (発熱患者さん等) への対応について、以下からお選びください (※一部複数選択あり)

	病院	内科	小児科	精神科	外科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	耳鼻科	眼科	肛門科	複数科	歯科
① 最初から断っている	25% (2)	7% (5)	0% (0)	50% (2)	50% (1)	88% (7)	100% (5)	67% (2)	77% (10)	0% (0)	100% (2)	100% (1)	45% (9)	100% (12)
② 電話またはインターネット越し	13% (1)	46% (32)	29% (2)	50% (2)	50% (1)	13% (1)	0% (0)	33% (1)	15% (2)	30% (3)	0% (0)	0% (0)	15% (3)	0% (0)
③ 通常通り診察	38% (3)	29% (20)	29% (2)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	60% (6)	0% (0)	0% (0)	20% (4)	0% (0)
④ 診察室を分けて診察	25% (2)	19% (13)	43% (3)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	8% (1)	10% (1)	0% (0)	0% (0)	20% (4)	0% (0)

4 問3で②～④を選択された場合、スタッフによる患者さんへの説明・問診・診療介助などの対応はありますか

	病院	内科	小児科	精神科	外科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	耳鼻科	眼科	肛門科	複数科	歯科
① ある	66	100%	69%	100%	50%	0%	100%	100%	0%	67%	71%	0%	89%	100%
② ない	24	0%	31%	0%	50%	100%	0%	0%	100%	33%	29%	0%	11%	0%
合計	90													

5 問3で②～④を選択された場合、一部負担金の徴収はどのようにしていますか。徴収方法について具体的にお書きください

「トレイで受け渡し」と書いている医療機関が多かった。その他「(当日金銭授受はせずに) 結果が判明してから徴収」「防護服を着て対応」など。小児科では「感染していない保護者から」との回答が多い。「クレジットカード利用」との意見もあった。

6 院外処方の場合、患者さんが希望する調剤薬局を確認して電話連絡をしていますか

	病院	内科	小児科	精神科	外科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	耳鼻科	眼科	肛門科	複数科	歯科
① 連絡している	52	33%	56%	0%	67%	50%	20%	33%	100%	33%	43%	0%	59%	13%
② 連絡していない	46	33%	27%	75%	33%	0%	60%	67%	0%	44%	43%	100%	35%	88%
③ その他	17	33%	17%	25%	0%	50%	20%	0%	0%	22%	14%	0%	6%	0%
合計	115													

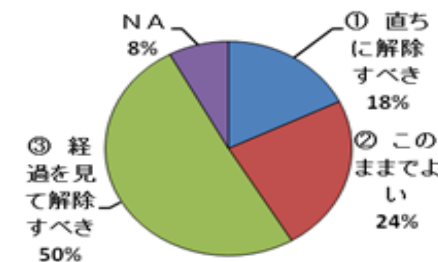
7 発熱患者さんの扱いについて病院・診療所、薬局、保健所と問題になったことはありますか

	病院	内科	小児科	精神科	外科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	耳鼻科	眼科	肛門科	複数科	歯科
① ある	17	14%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	10%	0%
② ない	129	86%	76%	100%	100%	100%	75%	100%	67%	100%	100%	100%	85%	100%
NA	6	0%	2%	0%	0%	0%	25%	0%	33%	0%	13%	0%	5%	0%
合計	152													

8 新型コロナへの食院の対応について、患者さんやそのご家族から意見・クレームを寄せられたことはありますか

「①ある」との回答は13件しかなかったが、(ア)週利自費で病状が悪化した例、(イ)発熱患者診療で時間がかかり待ち時間のクレーム、(ウ)院外(門外、廊下)で診察したことのクレーム、(エ)入院患者の面会再開の要望、(オ)感染者がハイキン扱われた、(カ)十分に接触者と思われる例が保健所ではPCR検査から漏れていた、など一定の不満があった。

9 先生は新型コロナを指定感染症から解除すべきと考えますか



新型コロナウイルス感染症支部アンケート結果報告

お忙しい中、アンケートへのご協力をいただきありがとうございました



日常診療経験交流会で報告する半田副支部長

新型コロナウイルス感染症が広がる中、政府は一般医療機関での診療を求め始めている。今回、発熱患者さんへの対応、院外薬局への連絡、指定感染症Ⅱ類からの解除などについて兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部の609件にアンケート調査を行い、152件の回答を得た(回答率約25%)。回答施設は内科が42%と最多だったが、歯科、小児科、整形外科、病院も含まれる。発熱患者を対面で診療しているのは約40%で、35%は断っていて、30%は建物以外での対応であった。また4割の施設で院外薬局への通知を行っていなかった。

指定感染症から解除すべきかどうかについては直ちに解除すべきが18%、このままでよいが24%、経過を見て解除すべきが50%だった。指定感染症としての手続の問題や、風評被害の問題が気になるものの、治療法が確立していない現状では、経過を見て対応するのが妥当との意見が多かった。西宮・芦屋支部ではこの結果を踏まえて、10月31日に新型コロナウイルス感染症研究会を開催した(詳細は裏面)。

【副支部長 半田伸夫】

兵庫県
保険医協会

西宮
芦屋宮
支部ニュース

No. 356
2020・11・25

発行
兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
662-0832
兵庫県西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

日常診療経験交流会で演題発表!

11月1日(日)、神戸市産業振興センターで第29回日常診療経験交流会が行われ、支部から広川恵一先生、半田伸夫先生、伊賀幹二先生が演題を発表した。

また、法西浩先生が「兵庫県猪名川町で宝もの探し」をテーマにご自身が猪名川町で採取された鉱物を展示した。

高血圧通院者100名の経年的記録についての広川先生の発表



広川先生は「高血圧症通院者100名について2009年から11年目の中断者と継続通院者にみる診療内容の検討」をテーマに、高血圧患者の通院に関わる経年的観察から、慢性疾患診療の留意点について検討した結果を報告。
「症例を検討した結果、それぞれ多くの課題が示された。日常診療は『これでもいいのか』という自らへの問いかけの場であり、通院と中断の背景ははじめ症例検討は診療での意識付けとなる。さまざまな気付きは来院者へのまなざしをより豊かにできることが期待できる」とまとめられた。



法西先生の説明に熱心に聞き入る参加者



←展示された「珪くじゃく石」

第2回新型コロナウイルス感染症研究会開催

COVID-19の現状と対策



10月31日(土)、午後3時より協会会議室に於いて、第2回新型コロナウイルス感染症研究会を「Zoom」によるオンライン視聴併用で開催した。

診断・治療・感染対策など具
体例を示して講演した講師の
浮村聡先生

講師に大阪医科大学附属病院感染対策室長の浮村聡先生を迎え、第1波では主に中等症と重症、第2波では重症のCOVID-19診療にあたられた経験に基づき、診断、治療、感染対策に加え、派生する不安への対策など解説した。
また、コロナウイルスとはどのようなウイルスか、流行の経過などを説明し、症例からどのように経過をたどるのか、日本で死者数が少ない理由なども紹介した。

「人々が活動を再開し、接触機会が増え、第2波がやってきた。早期診断、治療の標準化により予後は改善傾向にある。COVID-19における日本の医療の課題は個人防護具の不足、検査体制の充実、集中治療室のベッド不足といえる。集中治療室のベッドが満床になると医療崩壊がおこり命の選別が行われることを意味する。それを避けるための戦略が必要である」と今後の課題も示した。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は10月23日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。4人が参加した。

【I. 最近の診療経験の交流】

【II. 予定・企画】

- ① 第2回新型コロナウイルス感染症研究会 (10・31)
- ② 第3回新型コロナウイルス感染症研究会 (11・28)

【III. 予定・企画(日時未確定)】

- ① 近年開業医懇談会
- ② 認知症外来診療経験交流会
- ③ 健康と医療について語り合う会
- ④ 支部設立40周年記念企画

【IV. 協会・保団連行事】

- ① 第97回評議員会(11・15)

【V. 報告】

- ① 第37回漢方研究会(10・3)
- ② その他(新型コロナウイルス感染症診療に関するアンケート結果の報告など)

＊世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は11月27日(金)に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

伊賀先生は、①「精度80%の抗体検査—あなたが陽性なら?」、②「PCR増やせとの議論の前提」の2題を報告。

「新聞やテレビで言われる抗体検査の精度について医療者であっても言葉混同している場合がある。インフルエンザやコロナ感染症は診断用検査キットを用いて推定される。それには医療者が用いる言葉の意味を理解する必要がある」と例を挙げて説明した。

半田先生は、支部で行った「新型コロナウイルス感染症診療に関する支部アンケート結果報告」のテーマで、支部で行った新型コロナウイルスアンケートの結果についてデータを示して分かりやすく解説した(詳細は表面)。



感度・特異度について解説する伊賀先生